

JR 東唐津駅周辺（佐賀県唐津市）の景観について

私の実家があり、高校生まで暮らした唐津市の東唐津駅周辺について、“このようにあったらよいな”という提案をしたいと思います。

現在の東唐津駅周辺は北側が日本三大松原といわれている虹の松原と唐津湾、南東側が水田と集落その先には鏡山、西側が松浦川という、豊かな緑と水に恵まれた環境です。

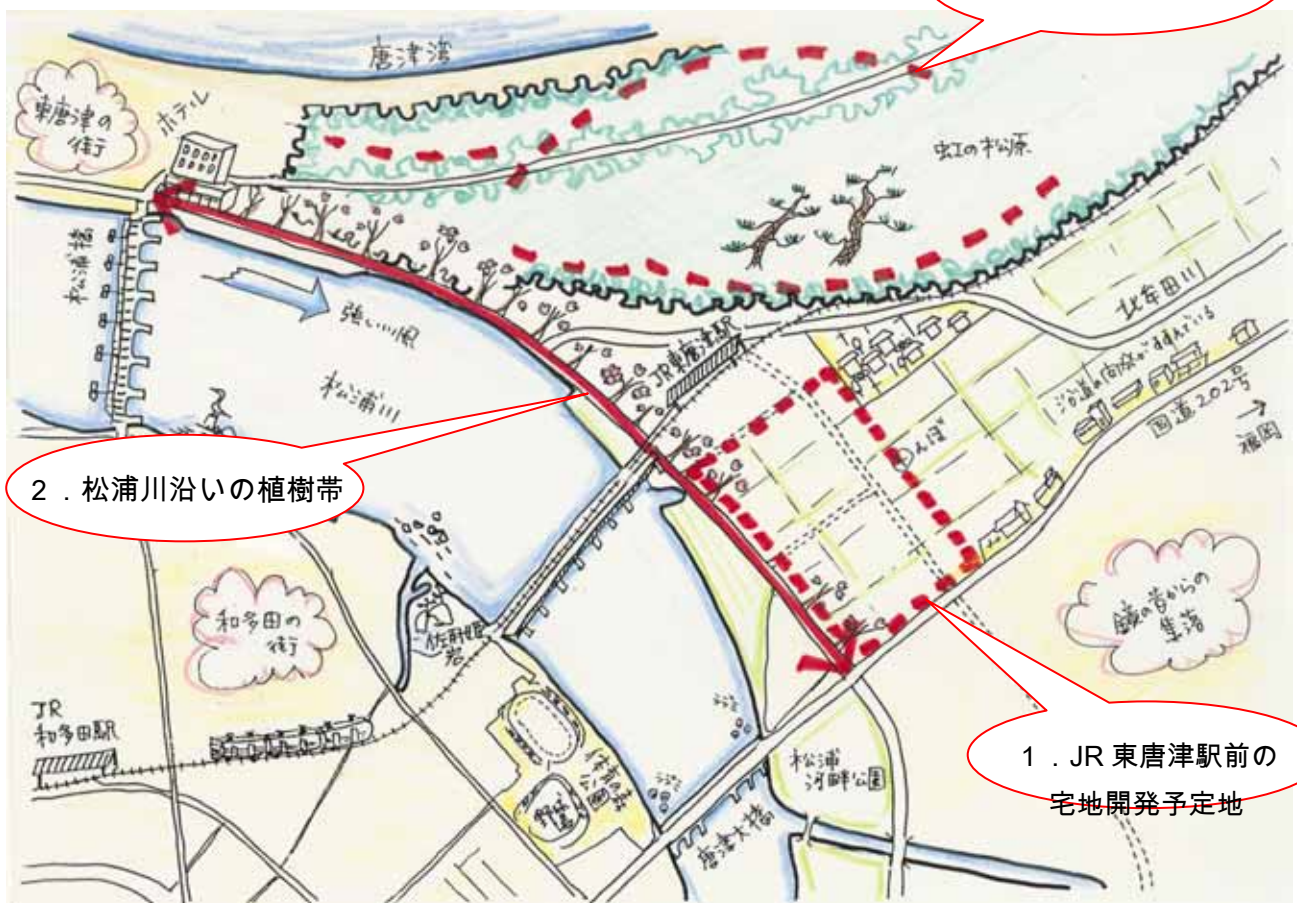
私が幼少の頃には、虹の松原から国道 202 号線の間はほとんどが水田で、春から夏、夏から秋と風景が移り変わり、季節によって水田や水路、松林などで遊ぶ遊びも違ったものでした。

高校を卒業して唐津を離れてから、たまに帰るたびにその周辺の風景は少しずつ変わっていき、水田は宅地化され、国道沿いには郊外型の商業施設が立地していきました。

便利になるのはよいことかもしれませんが、少し寂しいような気持ちになっているのも事実です。

しかし、それはそれとして今回の提案は、宅地化するのであればどのような住宅地であれば、現在の風景や環境を損ないにくいのか、また、すばらしい自然（二次的な緑地も含む）とその景観をどのように維持し、さらに活用していけるのかについて考えていたことから、三点ほどを挙げさせていただきたいと思います。

■現在の東唐津駅周辺の様子



1. JR 東唐津駅前の宅地開発予定地について

JR 東唐津駅前の水田が都市計画によって第一種低層住居専用地域になっているのを知ったのは、つい最近のことです。驚くと同時にそうだろうな、という気持ちでした。国道 202 号の沿線にあり、唐津市内に数少ない鉄道駅、JR 東唐津駅（地下鉄に乗り入れしていて天神駅まで正味 1 時間）周辺が平坦な水田なのですから、宅地化の構想があがっても不思議ではありません。

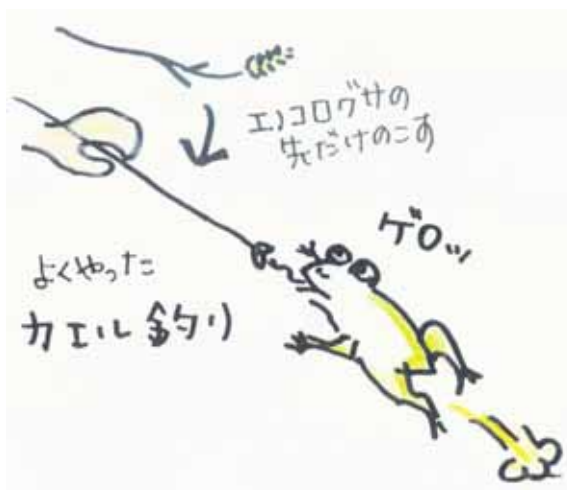
この松浦川や虹ノ松原に囲まれた田園地帯に、土地区画整理を行って開発する宅地とは、どのようなものになるのでしょうか？

現在、計画地周辺の既存住宅地はあまり美しい街並みとはいえません。敷地は細かく割られ（以前住んでいたその団地は 70 m²くらいでした）、公園の整備もなされていません。また同時期に入居しているため、現在では居住者の高齢化がかなり進んでいます。

そこで新しくできる住宅地に望むことは

- ① 敷地面積をできるだけ広くとる（100 m²くらいは欲しいと思います。）
- ② 区画内に都市公園をつくる（子供が動植物に触れられる、自然体験ができるような工夫をして欲しい。）
- ③ 緑道をつくる（冬は海から強い風が吹きます。宅地の北側につくると防風にもなると思います。また田園から松浦川へ通じる緑の通路として、人の通行や小動物の道にもなります。）
- ④ 開発は長いスパンで順じ行く。（20 年くらいかかってもよいのでは・・・）
- ⑤ 舗装を控えた駐車場を予めつくっておく。（1 世帯に 2 台や 3 台車があつたりするので、敷地を有効に使えるように。全面アスファルト舗装とかでなく芝や植栽のある駐車場に）
世代が変わって、人が入れ替わっても長く魅力のある住宅地にして欲しいと思います。

■自然体験？のイメージ



2. 松浦川沿いの植樹帯について

高校の時に自転車通学をしながら（海から川に上がってくる玄海灘の風が強く、冬は特に自転車が前に進みませんでした）、育つのかなと思っていた松浦川脇の、東唐津久里線沿道のサクラですが、十年経った今でもあまり大きくなっていません。ソメイヨシノは生長が早く、またその分

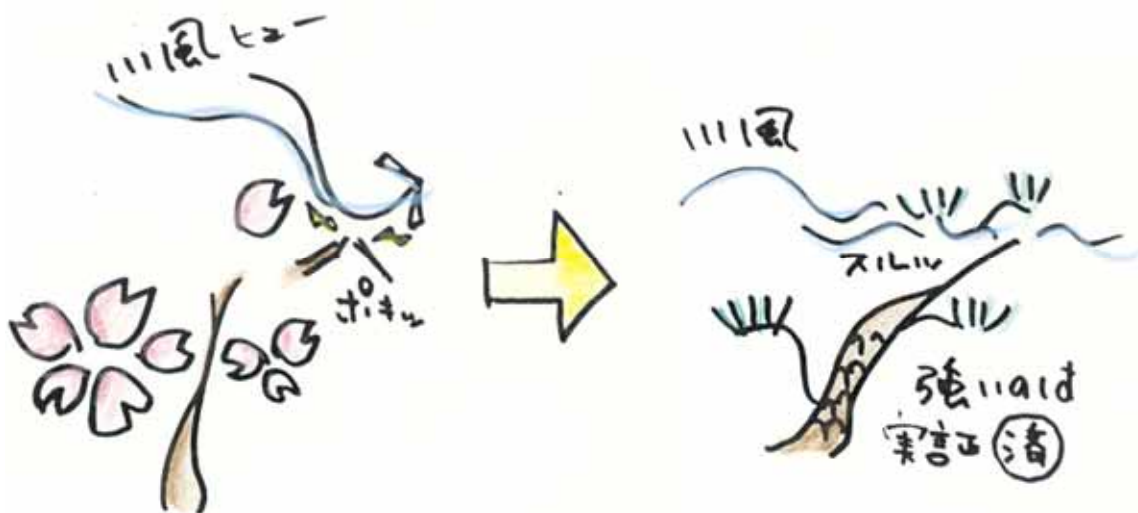
寿命が短い樹木です。ただでさえ強い川風に枝は折れ、花が付く間さえない感じです。見ていてかなり痛々しい(と思っているのは私だけ?)です。

そこで提案ですが、現在のサクラはそのままに、間にクロマツを植栽してはどうでしょうか。最初から大きいものを植えるのではなく、まだ小さい苗木を市民の希望者に植えてもらいます。市民(小中学生でもよいと思います)には苗を松原から採取して、植栽してもらってはどうか。公道ではありますが名前を付けるようにすると愛着もわき、管理までお手伝いしてもらえるかもしれません。(ある程度大きくなるまでですが・・・)

クロマツは大きくなれば下枝を切って通行の妨げにならないようにします。強い川風がマツを風情のある恰好にしてくれるのではないかと思います。クロマツが大きくなる頃にはソメイヨシノの寿命も尽きるのでは(サクラさんごめんなさい)と思います。

歴史のある城下町の唐津ですから、街路樹も年月を経て立派な風格のでてくるものを期待したいところです。

■風に強いのは実証済みのクロマツ(イメージ)



3. 虹の松原の維持と活用について

JR筑肥線の浜崎駅から東唐津駅にかけては、虹の松原を通過しますので、車内から松原の様子が見えます。道路わきは下草が刈ってあり管理されていますが、人が入らないような箇所では、下草が茂り広葉樹が生長してきています。クロマツ林というのは林床の管理が行き届いていないと、遷移が進んでしまうようです。このままだと、潮風の影響が弱く、土壤に粘土の多い松林の南側の方から広葉樹林になってしまうかも、と危惧しています。

昔のように松葉や枯れ枝を集める人もいない状態で、林床を美しく保つにはどうしたらよいのでしょうか。お金をあまりかけずに、楽しみながらできる管理にはどんな方法が・・・

現在の虹の松原の利用のされ方は、日常的には主に国道202号の車両の通行がほとんどで、加えて海水浴での利用や飲食店の利用等があります。行事としては「唐津10マイルロードレース」「虹の松原トライアスロン」で利用されているようです。せつかくの美しい松林ですが、普段は

車からの景観や、鏡山からの眺望のほかには、あまり活かされていない感じがあります。

松林を楽しみながら、管理もできるような仕組みや、行事がもっと行いやすい環境をつくることは出来ないでしょうか。(国有林なのでいろんな規制があって難しいのかもしれませんが)

例えば、日常的な利用としては、松林のなかに散策路を整備してウォーキング (オリエンテーリング) ができるようにする。今でも通行 (オリエンテーリング) できる道はありますが、マップやサインを配置し、位置や距離がわかるような工夫をすればもっと利用しやすくなると思います。

イベントでの利用としては、虹の松原を大々的に打ち出したアートフェスティバルの開催はどうでしょう。国道 202 号を歩行者専用道にして、国道沿いや海浜の各地点にテントを張り回遊できるようにします。昼間はテントで物産展やお茶会、お天気がよければ松林の中に唐津焼や彫刻、絵画等の展示を行います、夜にはジャズ演奏、映画の上映、花火などを行います。

また、松葉や枯れ枝を集める袋や軍手を配布し、各地点に回収所を設置します。回収した松葉の量によってお菓子を進呈します。(唐津には松露饅頭とか松原おこしとか、松原にちなんだお菓子が多くあります)

これから唐津の街がますます好きになるような、景観や地域のコミュニティが育っていった欲しいと思います。

■有償 (饅頭) のボランティアはいかが？

